

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「書き表し方をくふうして、物語を書こう」 教材名「たから島のぼうけん」

2 単元の目標

人物の行動や気持ち、性格を表す語句を集め、物語の中で使える。物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①人物の行動や気持ち、性格を表す語句を集め、物語の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

冒険で起こる出来事と登場人物の行動の理由を結び付け、読者が筋道を追える物語を書く。出来事を増やすことより、困ったことについて人物がどう考え、何をして進んだかを詳しくする。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

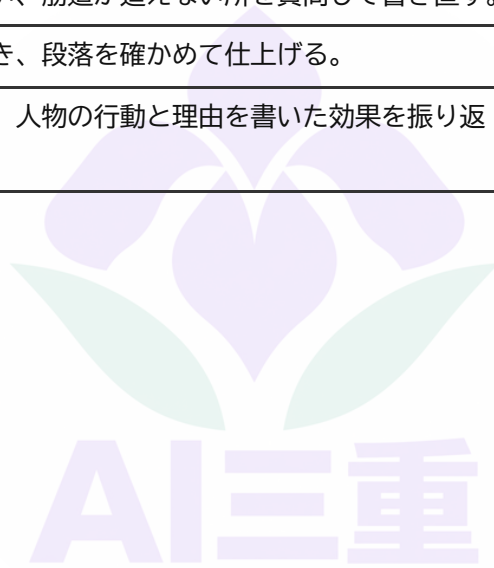
（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

出来事と人物の行動を並べたメモに、なぜそうしたかを書く欄を付ける。展開が作れない児童は身近な困りごとの解決を思い出し、冒険の出来事に置き換えて考える。教科書の絵は複製せず、使用する場合は原本で見る。おおむね満足できる状況は、物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○読み手を決め、冒険の始まりと目指すことを考える。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○主人公の性格と関わる人物を決め、どんな困りごとが起こるか考える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○出来事、人物の考えと行動、結果をメモでつなぐ。	学習状況を見て支援する。
	4	○メモを基に下書きを書き、行動や気持ちを表す語句を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	5 （本時）	○人物の行動の理由が読み手に伝わるかを確認、説明や描写を加える。	思①（発言・学習記録）
	6	○物語を読み合い、筋道が追えない所を質問して書き直す。	学習状況を見て支援する。
	7	○語句、文の続き、段落を確かめて仕上げる。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○作品を交流し、人物の行動と理由を書いた効果を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」 【めあて】冒険で起こる出来事と登場人物の行動の理由を結び付け、読者が筋道を追える物語を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・急に解決すると、どうしてできたのか伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」 自分の物語の下書きから、人物の行動とその理由が分かる箇所を選ぶ。友達に読んでもらい、理由が伝わらない箇所を聞く。人物の気持ちや前の出来事を表す文を書き足すなどして、行動の理由が伝わる文章へ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・急に解決すると、どうしてできたのか伝わらない。 ・人物の考えを書けば行動の理由が伝わる。 ・同じ困りごとでも性格によって行動が変わる。	出来事と人物の行動を並べたメモに、なぜそうしたかを書く欄を付ける。展開が作れない児童は身近な困りごとの解決を思い出し、冒険の出来事に置き換えて考える。教科書の絵は複製せず、使用する場合は原本で見る。 想定する難しさ：事件を次々に置き、解決が偶然だけになる。会話を増やしても行動の理由が伝わらない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫している。(物語の下書きと改稿・行動の理由を表した文)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ困りごとでも性格によって行動が変わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

